

令和3年度 第2回

久留米市男女共同参画社会づくり表彰

団体

青峰校区まちづくり振興会

活動内容

明るく住みよい地域社会の形成を目的として、校区コミュニティセンター運営や各構成団体の連携・連帯の推進、地域交流、行政との情報交換及び協働等に取り組んでいます。

受賞の理由

- ・ 役員の業務負担軽減や会議の時間帯を子育て世帯に合わせるなど、女性が参画しやすい環境をつくっている。
- ・ 久留米市校区まちづくり連絡協議会を構成する46校区コミュニティ組織の中で、コミュニティ組織における女性役員の割合が46.7%、校区における女性自治会長の割合が50%と、昨年に続き第1位である。
- ・ これらの取組は、久留米市が進めている「地域における男女共同参画社会の促進」に資するものとなっている。

歴史50周年を迎える非常に若いまち

青峰校区は、市のニュータウン整備事業で新たに開発され誕生したまちに、他校区からの若い世代が定住し、令和3年に50周年を迎えます。自分たちで自由闊達なまちづくりに取り組んだ世代が、現在の役員等を構成しており、仲間意識や結束力が強く、また、新しく移り住んだ住民にも地域で分け隔てなく交流し、誰もが住みやすいまちになっています。

さらに、女性主体の活動が活発で、日常的に開催される各種教室（ドレミの会、大正琴、パソコン、iPad、健康体操、日本舞踊など）で培われた交流やネットワークが、まちづくりへの参画を推進している背景の一つとなっています。



ドレミの会の様子

女性も先頭に立ってまちづくりを

原口会長はこれからのまちづくりについて次のように話します。「青峰校区は他の校区よりも女性の役員登用率が高いかもしれないが、校区の人口2,364人のうち1,312人（55.5%）は女性で、女性の方が多いことから私はもっと高くてもいいと思っています。老若男女問わず誰もが住みやすいまちにするためには、多様な意見が必要です。そのため、校区コミュニティ組織の会長も、もっと女性が増えていいと思います。女性も先頭に立ってまちづくりを進めてほしいです。」



青峰校区まちづくり振興会の皆さん

女性も男性も参画しやすい環境づくり

46校区の中で女性登用率が非常に高い青峰校区ですが、意図的な取組は行っていないと言えます。「青峰校区まちづくり振興会（以下、振興会）としては、地域の誰もが参画できるように環境整備を行うことが重要だと考えています。」と藤田事務局長は話します。

実際に、原口会長や藤田事務局長を中心に、振興会が役員になる人の意見を積極的に取り入れ、役員を全面的にバックアップする環境をつくっています。具体的には、会議の時間帯を子育て世帯が参加し易いように夕方の時間帯を避けたり、役職を必要に応じてさらに分担し、役員ができる範囲の業務に調整したりしています。振興会が住民に寄り添った運営をすることで振興会の負担は増加しますが、住民が役員になることへの負担が軽減され、女性も男性も安心して地域活動に参画することができます。

その結果、コミュニティ組織における女性役員の登用率だけでなく、地域の社会福祉増進に欠かせない民生委員（66.7%）や地域における人権啓発の推進において重要な役割を担う校区人権啓発推進協議会委員（80%）の任用率も非常に高く、女性が様々な場で活躍している。



原口会長